

当社+東大による「高精度3次元仮想空間を高速再現するモデリングソフトウェア開発」が、NEDO(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)平成22年度「産業技術実用化開発助成事業」採択に!

移動計測事業において先進的な試みを続けている当社は、3次元形状処理を研究する東京大学大学院工学系研究科「増田 研究室」との共同開発プロジェクトを企画し、その重要性と先進性が認められて平成23年3月28日、NEDO開発助成事業の「平成22年度第2回イノベーション推進事業」に採択されました。本プロジェクトは、次世代の計測データ処理システムの実現を目指しており、当社の移動計測事業を更に加速させるものです。

【※1:高精度3次元計測は世界的規模で始まりつつあります】

固定式3DLレーザースキャナや、当社が保有する移動体モバイルマッピングシステムが世界的に普及し始める現在、高精度な3次元データ取得が容易になって来ました。3DLレーザー計測データとは一見、写真の様にみえますが、実は大容量3次元座標集合体であり、この座標群から高精度な「バーチャル空間」への構築が世界的にも注目され、あらゆる業界・業種で利用可能です。

【※2:計測精度と共に、世界シェアでトップクラスの三菱電機製MMSと、準天頂衛星「みちびき」】

MMSとは、三菱電機が開発した移動体で高精度な3次元計測を可能とする「モバイルマッピングシステム」の略。高精度GPS、レーザースキャナ、カメラ等の機器を専用フレームに固定し車両に搭載、走行しながら周辺の建物・道路面・標識・ガードレール・路面文字・マンホール等、車体の揺れや傾斜にかかわらず、3次元位置情報を高精度で効率的に取得することができます。当社では、2010年9月に打上げられた準天頂衛星「みちびき」が正式決定した時点でいち早くMMSを導入決定、「みちびき」による自己位置精度向上による相乗効果の研究開発も進めています。

【※3:東大:増田研究室との共同研究開発にて目指す高速モデリングシステムとは】

本システムは、MMSが計測したデータから、自動的に道路の白線・縁石・ガードレール・標識から電柱等、指定した地物が高精度な点群精度を保持したまま抽出できる為、インフラ企業から自動車ITS業界からも注目されています。

